

2020 年度
講義概要(シラバス)
1 年生

松江総合医療専門学校
看護学科

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	情報科学	2(45)	1年	前期 後期
担当教員	水野 薫	実務経験	大学教員として大学、専門学校における教育経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	統計理論に基づく情報処理(データ処理)は医療分野においても予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本講義では得られた標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について、具体例に基づいて基礎的内容解説する。その際、パソコンの表計算ソフトを用いたデータ処理の演習も行う。			
目標	①散布図、標準偏差、信頼区間、区間推定、カイ2乗検定、帰無仮説、平均値の検定(t 検定)などを理解し簡単なデータ処理に使えること。 ②上記のデータ処理に表計算ソフトExcelを、報告書の作成に文書作成ソフトWordをさせること。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	ガイダンス 統計学の概説	前期の講義内容、評価方法の説明 記述統計学の基礎的用語の解説	
	2	パソコンの基本的操作	パソコンとソフトの起動・停止、 日本語入力、文書の印刷、保存	
	3	文書作成ソフト①	Wordの基本操作 文書の作成	
	4	文書作成ソフト②	図、表を含む文書の作成	
	5	表計算ソフト①	Excelの基本操作 表の作成	
	6	表計算ソフト②	関数機能を用いた表計算、グラフの作成	
	7	プログラミング	HTMLによるプログラミング	
	8	中間試験	パソコンを用いた簡単なデータ処理とその結果を まとめた報告書の作成の実技試験	
	9	ガイダンス、プレテスト	後期の講義内容、評価方法の説明	
	10	数学的準備	級数の和、順列・組合せ、確率	
	11	平均と分散①	度数分布と平均	
	12	平均と分散②	分散と標準偏差	
	13	信頼区間①	母集団と標本、無作為抽出	
	14	信頼区間②	母平均と母分散の推定	
	15	信頼区間③	区間推定	
	16	カイ2乗検定①	観測度数と期待度数	
	17	カイ2乗検定②	カイ2乗値	
	18	カイ2乗検定③	カイ2乗分布と自由度	
	19	カイ2乗検定④	有意水準と仮説検定	
	20	t 検定①	平均値の差の信頼区間	
	21	t 検定②	t 値と仮説検定	
	22	t 検定③	対応のある t 検定	
23	期末試験	統計学の基礎的知識と能力を問う試験(電卓持参のこと)		
教科書 (前期) 教科書 (後期)	30時間でマスター Word & Excel 2019 Windows10対応 (実教出版) ISBN978-4-407-32094-7 定価1,045円(税込み) 向後千春、富永敦子著:統計学がわかる (技術評論社) ISBN978-4-7741-3190-0 定価1,848円(税込み)			
評価方法	演習問題のレポート(30点満点)、中間試験(30点満点)、期末試験(40点満点)の合計点で評価する。得点が60点以上で合格。 欠席や遅刻(30分まで、それ以降は欠席)・早退による減点が行わないが、中間・期末試験の受験にはそれまでの講義回数の2/3以上の出席(早退・遅刻は0.5回の欠席として扱う)がないと受験を認めない。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
基礎分野	生物学	1(30)	1年	前期	
担当教員	舟木 賢治	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。		
授業形態	講義				
目的	生物一般の生命現象への関心を深め、人間理解につなげる能力を養う。				
目標	基本的な生命現象の諸様相を通覧することにより、生物学全体に関わる基礎知識を学習し、人が生きていること(生命)の自然科学の面から解明する。 また、生命の基本現象や法則を知ることにより、生命の尊厳について考え、看護の対象である人間理解への基礎とする。				
授業内容	回	項目	内容		
	1	生物学を学ぶにあたって	1. 生物学と生命観 2. 生物の定義		
	2 3	生命体のつくりとはたらき	1. 生命の階層性(細胞, 組織, 器官, 系および個体) 2. 生態を構成する物質(元素および分子) 3. 細胞の構造と機能		
	4 5	生命維持のエネルギー	1. 生命活動と酵素のはたらき 2. 異化作用と生命活動		
	6 7 8	細胞の増殖	1. 細胞分裂と細胞周期 2. 遺伝子DNAの構造と複製 3. 遺伝情報の発言		
	9 10 11	ヒトの生殖と発生	1. 配偶子形成と細胞周期 2. 排卵周期とその調節 3. 受精、卵割、胚葉形成		
	12 13	遺伝情報の伝達	1. 遺伝の法則 2. ヒトの遺伝と変異(遺伝病と染色体異常)		
	14 15	恒常性の維持	1. 体内環境の維持とその調節 2. 生体防御		
	教科書 参考書	新しい教養のための生物学 初版(裳華房)			
	評価方法	筆記試験にて評価を行う。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	心理学	1(30)	1年	前期
担当教員	藤井 香里	実務経験	准教授として短期大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	人間の心の働きと行動を理解するための基礎を学ぶ。			
目標	(1) 知覚・記憶・学習の成立過程を学ぶ。 (2) ライフサイクルの各段階における心の発達過程を学ぶ。 (3) 心理学の応用について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	オリエンテーション	心理学とは(定義・歴史)、授業計画について	
	2	知覚・記憶	錯視、恒常性、奥行き知覚、記憶過程、忘却	
	3	学 習	古典的条件付け・オペラント条件付け	
	4	欲求・動機づけ	生理的動機、社会的動機、内発的・外発的動機、葛藤	
	5	発達心理学	エリクソンのライフサイクル論	
	6		乳児期： 身体的発達、愛着形成過程・パターン、タッチケア	
	7		幼児期： ピアジェの発達理論、心の理論	
	8		児童期： 社会性の発達、ギャングエイジ	
	9		青年期： 二次性徴、アイデンティティの確立	
	10		成人期： 結婚・子育てなどのライフイベント、中年期危機	
	11		老年期： 老いとは、生きがい、死の受容	
	12	教育心理学	障がいをもつ子の理解	
	13	人格心理学	パーソナリティとは、類型論・特性論、知能とは、心理検査	
	14	臨床心理学	フロイト、ユングについて、ロジャーズのカウンセリング理論	
15	社会心理学	対人認知、集団・群集の心理		
教科書 参考書	新体系看護学全書 基礎科目 心理学 第1版 田中 彦 (メヂカルフレンド社)			
評価方法	出席・授業態度および筆記試験にて総合的に評価を行う。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	英語 I (英語の基礎)	1(30)	1年	前期
担当教員	林 高宣	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	英語を通して看護の世界にふれる。			
目標	1. 高校までに学んできた英語をふまえ英語の基礎を学ぶ。 2. 英語の読解力を高める。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	Wayfaring Stranger	講読	
	2	"	"	
	3	"	"	
	4	"	"	
	5	"	"	
	6	"	"	
	7	"	"	
	8	"	"	
	9	"	"	
	10	"	"	
	11	"	"	
	12	"	"	
	13	"	"	
	14	"	"	
15	テスト			
教科書 参考書	プリントを配布する。			
評価方法	授業への取り組み、筆記試験にて評価を行う。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	保健体育	2(45)	1年	前期 後期
担当教員	三井 律子	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	実技 講義			
目的	健康や体力について理解し、運動の実践を通して心身の調和的発達を促すとともに、健康で安全な生活を営む態度を身につける。			
目標	自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかり、運動の意味や効果を理解し、運動することへの自覚を促進する。 団体競技や実技を通して、他者とのコミュニケーションを深めたり、集団の中での関わり方について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	体力チェック	体力テスト	
	3 ・ 12	実技	ニュースポーツの実際	
	13 ・ 14	健康と運動	心身の健康とチームワークビルディングについて	
	15 ・ 16	健康と運動	健康と体力について	
	17 ・ 20	実技	エアロビクスダンスエクササイズの実際	
	21 ・ 22	体力チェック	体力テスト	
	23	まとめ	ふりかえり	
	教科書 参考書			
評価方法	出席状況、受講態度等による総合評価			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ (骨・筋・神経・生殖器)	2(45)	1年	前期 後期
担当教員	直良 博之	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	人体を骨格系や内臓系などの系統別に分け、細胞レベルから全身に至る人体の構造を理解する。 人体を認識するため生体の機能を系統別に学ぶ。			
目標	人の生命現象を理解するために生体の構造の特徴を理解し、その意義について学ぶ。 人体における生命現象の対象として、生体の働き、細胞、組織、器官の役割と機能を学ぶ。 健康な人が活動しているときに人体に起こる生理機能的変動を知り、その制御機能を知る。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	人体とは何か	1. 人体とは	
	2 ・ 3	細胞と組織	1. 細胞 2. 組織	
	4 ・ 5 ・ 8	骨格系	1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 体幹の骨格 4. 上肢の骨格 5. 下肢の骨格 6. 頭蓋	
	9 ・ 13	筋系	1. 骨格筋はどのようなものか 2. 頭頸部の筋 3. 体幹の筋 4. 上肢の筋 5. 下肢の筋	
	14 ・ 18	神経系	1. 神経系の分類 2. 神経系の発生 3. 中枢神経系 4. 末梢神経系、感覚器 5. 自立神経系、内分泌 6. 伝導路	
	19 ・ 20	皮膚	1. 皮膚の構造と機能 2. 生体の防御機構 3. 体温とその調節	
	21 ・ 22	生殖器系	1. 発生学概論 2. 減数分裂とその意義 3. 性の決定 4. 男性生殖器 5. 女性生殖器	
	23	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第10版(医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	解剖生理学Ⅱ (循環・呼吸・消化・泌尿・内分泌系)	2(45)	1年	前期 後期
担当教員	中川 忠彦	実務経験	助教として大学にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	人体を骨格系や内臓系などの系統別に分け、細胞レベルから全身に至る人体の構造を理解する。 人体を認識するため生体の機能を系統別に学ぶ。			
目標	人の生命現象を理解するために生体の構造の特徴を理解し、その意義について学ぶ。 人体における生命現象の対象として、生体の働き、細胞、組織、器官の役割と機能を学ぶ。 健康な人が活動しているときに人体に起こる生理機能的変動を知り、その制御機能を知る。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 6	循環器系	1. 循環器とはどのようなものか 2. 心臓 3. 血管の構造 4. 肺循環の血管 5. 全身の動脈 6. 全身の静脈 7. 胎児の血液循環 8. リンパ系 9. 循環系の関連臓器	
	7 8 11	呼吸器系	1. 呼吸器の構造と機能 2. 外呼吸と内呼吸 3. 気道の構造と機能	
	12 13 16	消化器系	1. 消化とは 2. 口腔の構造と機能 3. 唾液、唾液腺 4. 消化管の構造と機能 5. 肝臓、胆嚢、すい臓 6. 腹膜の局在と機能、後腹膜臓器	
	17 18 19	泌尿器系	1. 腎臓の構造と機能 2. 尿管の走行 3. 膀胱の構造と機能 4. 尿道の走行	
	20 21 22	内分泌系	1. 自律神経による調節 2. 内分泌系による調節 3. 下垂体・甲状腺・上皮小体の構造と機能 4. 膵臓・副腎の構造と機能	
	23	テスト		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 第10版(医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	生化学	1(30)	1年	前期
担当教員	新部 一太郎	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	生命現象を糖質・脂質・アミノ酸・核酸などの生体分子の構造と機能から総合的に理解する			
目標	生体内で起こっている物質の動態や現象を理解し、正常な身体の有り様や病的状態をはじめ日常の事象に対して化学的な解析をする習慣を養うとともに、臨床の各分野に必要な基礎的な知識を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	生化学のための生物学代謝の概要	1. 身近な生化学 2. 代謝の概念と三大栄養素代謝の概要	
	2	代謝と酵素	1. 酵素の役割と代謝の調節 2. ビタミンの種類と役割	
	3 ・ 4	糖質の構造と機能	1. 単糖の構造と機能 2. 多糖・複合糖の構造と機能	
		糖質代謝	1. 糖質の消化吸収とエネルギー代謝 2. 糖質の貯蔵と新生	
	5 ・ 6	脂質の構造と機能	1. 脂質の種類とその構造 2. 脂質の輸送とリポタンパク質	
		脂質代謝	1. 脂質の消化吸収と脂肪酸代謝 2. 脂質の合成と貯蔵	
	7 ・ 8	タンパク質の構造と機能	1. アミノ酸の種類と構造 2. タンパク質の高次構造(立体構造)	
		タンパク質代謝	1. タンパク質の消化吸収とアミノ基転移 2. 生体含窒素化合物の代謝	
	9	ポルフィリン代謝と異物代謝	1. ポルフィリンの生合成と分解 2. 生体異物代謝	
	10	遺伝と核酸	1. 遺伝学の基礎 2. 核酸代謝	
	11	遺伝子の複製と修復	1. DNA複製のメカニズム 2. DNAの修復と変異	
	12 ・ 13	遺伝情報の発現とその調節	1. 転写のメカニズム 2. 遺伝子の発現調節 3. 翻訳と翻訳後修飾	
	14	シグナル伝達	1. シグナル伝達の仕組み 2. ホルモン概論	
	15	代謝のまとめと疾患	1. 代謝異常疾患 2. がん	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 第14版(医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	栄養学	1(15)	1年	後期
担当教員	田中 美紗子	実務経験	管理栄養士として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	食物、食生活と健康の関係について科学的かつ総合的に理解する。 臨床栄養学について理解する。			
目標	生体が正常な営みをするのに必要な栄養について理解し、各々の疾患に対し、栄養補給のみならず、効果的な食事療法が出来るよう基礎的知識を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	各栄養素の栄養的役割 栄養所要量とエネルギー所要量	飲食物に含まれるおもな栄養素の栄養的役割と特徴 栄養所要量とエネルギー所要量の算定および各栄養素の所要量	
	2	ライフステージと栄養	ライフステージ別の栄養を栄養素の面から学ぶ。	
		食品構成と各種食品の特徴、 栄養状態の判定	食品構成による食事計画の基本	
	3 ・ 4	飲食物の摂取と消化吸収 わが国の栄養の現状と栄養改善	食物に含まれる各栄養素の消化・吸収のしくみ	
	5	臨床栄養	臨床栄養の意義と食事療法の概要、病院給食について	
		栄養成分別分類と治療食	栄養療法とは	
	6 ・ 7	各疾患別の栄養	消化器疾患、内分泌疾患、その他	
8	テスト			
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 第13版 (医学書院) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 (文光堂)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学総論	1(30)	1年	前期
担当教員	秦 幸吉	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	病因と病変の特徴を理解する。			
目標	病因と病理発生(病変)の特徴を理解する。 臨床検査の概要を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	病理学で学ぶこと	1. 病理学の概念 2. 病因論(内因・外因) 3. 細胞・組織の構造 4. 細胞・組織の病変	
	3 ・ 4	腫瘍	1. 腫瘍の分類 2. 腫瘍の進展様式 3. 腫瘍の重要事項	
	5 ・ 6 ・ 7	循環障害	1. 鬱血・出血・貧血 2. 傍側循環・ショック 3. 血栓症 4. 動脈硬化症 5. 脳卒中・水腫・アシドーシス	
	8 ・ 9 ・ 10	炎症	1. 総論 2. 急性炎症・慢性炎症 3. アレルギー性疾患	
	11 ・ 12	先天異常・代謝異常	1. 先天異常とは 2. 糖尿病 3. 痛風 4. 黄疸	
	13	老化と死	1. 老化現象と病気の関係	
	14 ・ 15	臨床検査	1. 血液 2. 尿・便 3. 痰・胃液・胆汁 4. 髄液など	
	教科書 参考書	カラーで学べる病理学 第5版 渡辺照男(ヌーヴェルヒロカワ)		
評価方法	筆記試験、出席状況			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門基礎分野	病理学Ⅰ (循環・呼吸・消化器)	1(30)	1年	前期	
担当教員	田邊 一明、佐藤 秀一、 平 稔弘、福原 寛之、 福庭 暢彦、塩田 由利、 吉村 禎二	実務経験	医師として病院勤務経験あり。		
授業形態 講義					
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。				
目標	成人の循環器・呼吸器・消化器系疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1 5 5	循環器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ 3. 心電図、胸部X-P、心エコー		
		治療・処置	1. 内科的治療 薬物療法、ペースメーカー、心臓カテーテル 2. 外科的治療 弁置換術、バイパス手術、血管再建		
		主な疾患の病態生理	1. 狭心症・心筋梗塞 2. 高血圧・不整脈 3. 弁膜症・先天性疾患		
	6 5 10	呼吸器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 喀痰、血痰、咳、胸痛、呼吸困難 3. 喀痰検査、胸部X-P、内視鏡検査、呼吸機能検査		
		治療・処置	1. 吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法 2. 開胸術、胸腔鏡手術		
		主な疾患の病態生理	1. 肺炎、結核、間質性肺疾患、気道疾患、肺腫瘍 2. 間質性肺疾患、気道疾患 3. 肺腫瘍		
	11 5 15	消化器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 嚥下困難、吐き気、嘔吐、腹痛、吐血、下血、下痢、便秘 3. 糞便検査、血液検査、内視鏡検査、エコー、CT		
		治療・処置	1. 内科的治療 薬物療法、食事療法、放射線療法 2. 外科的治療 手術療法		
		主な疾患の病態生理	1. 食道疾患、胃がん、腸疾患 2. 肝炎、肝硬変、肝がん 3. 膵炎		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器	第15版(医学書院)		
	参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器	第15版(医学書院)		
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器		第15版(医学書院)			
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門基礎分野	病理学Ⅱ (運動・脳・神経・血液・造血器)	1(30)	1年	前期	
担当教員	伊達 伸也、青木 秀暢 上山 潤一	実務経験	医師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。				
目標	成人の運動器・脳、神経・血液、造血器系疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1 5 5	運動器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 疼痛、形態・関節運動の異常、神経・筋肉の障害 3. 肢位・姿勢、計測、画像検査、骨密度、関節鏡		
		治療・処置	1. 保存療法 2. 理学療法・作業療法 3. 手術療法 4. 義肢と装具		
		主な疾患の病態生理	1. 外傷性の疾患 骨折、脱臼、筋・腱・靭帯の損傷 2. 内因性の疾患 骨腫瘍、軟部腫瘍、筋・腱の疾患、神経の疾患、脊椎の疾患		
	6 5 10	脳・神経	別紙1参照		
	11 5 15	血液・造血系の解剖生理 主な症状・検査	1. 成分・機能、造血のしくみ 2. 貧血、白血球増加・減少、脾腫、リンパ節腫脹 3. 血液検査、骨髓穿刺、リンパ節生検		
		治療・処置	1. 輸血療法 2. 化学療法 3. 造血幹細胞移植		
		主な疾患の病態生理	1. 赤血球・白血球系の疾患 2. リンパ網内系疾患 3. 出血性疾患		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 第15版(医学書院) まるごと図解 ケアにつながる脳の見かた 波多野武人(照林社) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 第15版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 第15版(医学書院)			
	参考書				
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅱ (脳・神経)	10	1年	前期
担当教員	青木 秀暢	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
授業のねらい	<p>脳神経系は身体と心の司令塔である。脳の簡単な解剖・生理、疾病を理解するための症候学と脳神経外科の救急初期治療、特殊検査法、脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷と手術治療法概論などについて講義する。</p> <p>われわれが経験した症例を中心に、USB（スライド）と手術DVDを用いて、臨床に十分役立てるようにし、国家試験に万全を期したい。</p>			
授業内容	回	項目	内容	
	6	脳・神経	脳の簡単な解剖・生理学、症候学（頭蓋内圧亢進）、脳神経外科の救急初期治療→救急蘇生法（A, B, CとAED）	
	7		特殊検査法	
	8		脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷	
	9		手術治療法概論	
	10		脳の病理解剖示説（正常脳と病的脳）	
	11		人生における心・技・体、健康づくり	
～食生活と家庭でできる簡単な運動～ (若いうちに心と体を鍛えよう！)				
教科書	まるごと図解 ケアにつながる脳の見かた 波多野武人（照林社）			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 第15版 竹村信彦（医学書院） レビューブック（看護師・看護学生のための）（国試対策集）メディックメディア出版			
評価方法	筆記試験			
その他	レジメが多いので、A4ファイルとノート（ルーズリーフ）を準備する パソコン、DVD、CDラジカセを準備してください			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	微生物学	1(30)	1年	前期
担当教員	福島 博	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	微生物は患者を理解する上で基礎的知識となり、感染の予防及び援助を行う際の基盤となる。 特に看護技術の滅菌方法は、微生物の知識が基盤となり、原理に基づいた看護へと関連していくのに必要である。 微生物の特徴と主体に及ぼす影響を学び、その対応について理解する。			
目標	看護に必要な微生物と免疫の基礎知識を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	微生物学の基礎	1. 微生物と微生物学 2. 細菌の性質	
	2 ・ 3	細菌学実習	手指・だ液の細菌(滅菌と消毒) 薬剤耐性試験	
	4	微生物学の基礎	3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質	
	5 ・ 8	感染とその防御	6. 感染と感染症 7. 感染に対する生体防御機構 8. 感染源・感染経路からみる感染症 9. 感染症の予防 10. 感染症の検査と診断 11. 感染症の治療 12. 感染症の現状と対策	
	9 ・ 12	主な病原微生物 細菌学各論	13. 病原細菌と細菌感染症 1. グラム陽性球菌 2. グラム陰性球菌 3. グラム陰性桿菌 好気性菌 4. 通性菌 5. カンピロバクター 6. グラム陽性桿菌 7. 好酸菌、放線菌 8. 嫌気性菌 9. スピロヘータ 10. マイコプラズマ 11. リケッチア目 12. クラミジア目	
	13 ・ 15	真菌学 原虫学 ウイルス学各論	14. 病原真菌と真菌感染症 15. 病原原虫と原虫感染症 16. 主なウイルスとウイルス感染症 DNAウイルス RNAウイルス	
	教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 第13版(医学書院)		
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	薬理学	1(30)	1年	後期
担当教員	小林 裕太	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	薬物の特徴、作用機序、人体への影響を理解し、正しい取り扱いや管理についての基礎的知識を身につける。			
目標	薬理学の考え方と、薬物による疾病の治療やその予防に関する理論の基礎を理解する。さらに主要な疾患とその治療薬について看護の視点から理解する。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	総論1	薬理学の概念、薬物受容体、薬理作用、予薬経路について学ぶ。	
	2	総論2	薬物体内動態、薬効に影響を与える要因について学ぶ。	
	3	総論3	薬の有害作用、薬の管理、新薬の開発について学ぶ。	
	4	化学療法薬(1)	抗感染症薬の作用機序と主な薬剤について学ぶ。	
	5	化学療法薬(2)	抗腫瘍薬と作用機序と主な薬剤、副作用とその対策について学ぶ。	
	6	免疫治療薬、抗アレルギー、抗炎症薬	免疫治療薬、抗ヒスタミン薬、エイコサノイド、非ステロイド性・ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬について学ぶ。	
	7	末梢神経作用薬1	自律神経作用薬概論、交感神経作用薬について学ぶ。	
	8	末梢神経作用薬2	副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬について学ぶ。	
	9	中枢神経作用薬1	全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬について学ぶ。	
	10	中枢神経作用薬2	向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について学ぶ。	
	11	心臓・血管系作用薬1	高血圧治療薬、狭心症治療薬、うっ血性心不全治療薬について学ぶ。	
	12	心臓・血管系作用薬2	抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液作用薬、循環器系救急蘇生薬について学ぶ。	
	13	呼吸器系・消化器系作用薬	喘息治療薬・鎮咳薬、消化器系治療薬について学ぶ。	
	14	生殖器系、物質代謝に作用する治療薬	生殖器系作用薬、ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン欠乏症とその治療について学ぶ	
15	皮膚科・眼科薬・消毒薬・漢方薬	皮膚科・眼科用薬、消毒薬・漢方薬について学ぶ。		
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第14版(医学書院)			
評価方法	筆記試験にて評価を行う。			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	総合医療論	2(30)	1年	前期
担当教員	小海 力、澤田 勝寛 川合 政恵	実務経験	病院にて勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱えているかを理解し、深く考える。			
目標	人間の健康を守る営みがどのように変遷してきたか、人々の健康観及び家族の役割と職業として専門分化した職種の仕事や協働を通し、医療の動向と医療看護提供システムについて学ぶ。患者からみた「医」の「論理」と「倫理」「管理」について考える。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	医療と看護の原点	1. 命と健康 2. 病の体験 3. 癒し 4. 医療におけるサイエンスとアート	
	2 3 4	医療の歴史	1. 現代医療の起源 2. 家族機能と専門分化する医療専門職	
	5 6 7	患者からみた医療	1. もしも病気になったら 2. 環境衛生・保健・福祉 3. 生活習慣病 4. 高齢者の世代間のきずな 5. ノーマライゼーション 6. 心の健康 7. リハビリテーション	
	8 9	技術社会の高度化と健康・生命をめぐると新たな課題	1. 先端医療の成果 2. 産業社会の発展と人間関係の健康	
	10	成熟する社会と人々の意識改革	1. 医療不信から「賢い」患者へ 2. インフォームドコンセントと医療情報の開示 3. 医療安全と医療事故	
	11 12	医療を見つめなおす新しい視点	1. 「医」の「論理」と「倫理」「管理」 ・受診行動、医療と倫理、臨床疫学、医療の管理と評価	
	13	健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流	1. 新時代の保健医療とその担い手 2. 日本型プライマリーケア 3. 心の通った医療 4. これからの先端医療 5. 情報化社会と医療 6. 保健・医療の国際化	
	14 15	看護職に期待されるもの	医師の立場から、看護職の立場から、学生の立場から	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 第3版(医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門分野 I	看護学概論	2(45)	1年	前期	
担当教員	作野 佳枝、内田 眞澄	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義 演習				
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職としての基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。				
目標	「看護とは何か」を考えるために、看護の主要概念を中心に学び、看護の位置づけと役割の重要性について理解する。 看護独自の機能と役割が理解できる。また、看護と社会的背景の関連を理解し、これらの看護を考える。 看護の理念を通して看護の本質を学び、自己の看護観を発展させる。 看護倫理の基礎的知識を学び、倫理的葛藤場面における判断能力を養う。				
授業内容	回	項目	内容		
	1 3 4	看護の概念	1. 看護を考える 2. 看護の主要概念とは ・人間 ・健康 ・環境 ・看護 ・教育		
	5 6 7	看護の変遷	1. 原始古代と家族による看護 2. 宗教による看護 3. 職業的看護のめばえ 4. 職業としての看護 5. 看護の専門化 6. これからの看護		
	8 9	看護の対象	1. 個人 2. 家族 3. 組織・地域		
	10 11 13	看護の機能と役割	1. 看護の目標 2. 看護活動がもつ機能 3. 看護活動 ・直接看護活動 ・保健医療福祉チームの活動の仲介と調節 4. 看護実践における対人関係の重要性		
	14~16	看護活動 看護実践の方法			
	17~18	現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題	1. 看護の機能と活動の場における特徴 2. 現代の保健医療福祉活動が直面する課題		
	19 20	看護論	1. フローレンス・ナイチンゲール 環境論 2. ヴァージニア・ヘンダーソン ニード論 3. ドロセア・E・オレム セルフケア理論 4. ゴードン・M 11の機能的健康パターン		
	21 22	看護の倫理	1. 看護倫理とは ・看護倫理の必要性 ・看護専門職と看護倫理 2. 看護における倫理的ジレンマ ・インフォームドコンセント・情報開示 ・研究に関する倫理 3. 価値の特性 4. 倫理の原則 5. 患者の権利 6. 責務 7. 協力 8. 倫理的意識決定能力		
	23	テスト			
	教科書 参考書	新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 第4版 (メヂカルフレンド社) 看護の基本となるもの 再新装版 湯楨ます (日本看護協会出版会) 新版 看護者の基本的責務 2020年版 日本看護協会監修 (日本看護協会出版会) 看護の中の看護活動 上巻 初版 (HATO書房) 看護覚え書 第7版 (現代社)			
	評価方法	筆記試験 授業態度、レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野 I	基礎看護技術論 I (基本技術)	2(45)	1年	前期
担当教員	今井礼子、増原清子 田中朱美、船津孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を学び、高い臨床能力を養う。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	看護技術論	1. 看護技術論とは 2. 看護実践の場とは	
	5	観察	1. 観察の意義、内容、方法	
	3	コミュニケーションの基礎	1. コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの手段 3. 良いコミュニケーションを持つために	
	4	記録・報告	1. 記録の重要性 2. 記録上の注意 3. 報告の重要性 4. 報告の方法	
	5 6 14	安全・安楽	1. 危険防止 2. 感染予防 ・滅菌と消毒 ・スタンダードプリコーション 3. 医療上の過誤 4. 安楽を守る技術 ・ボディメカニクス ・体位変換	
	15 6 22	フィジカルアセスメント	1. 健康状態の評価 ・フィジカルアセスメントの実際	
	23	テスト		
教科書	考える基礎看護技術 I 第3版 (ヌーヴェルヒロカワ) 考える基礎看護技術 II 第3版 (ヌーヴェルヒロカワ) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 初版 (日本看護協会出版会)			
参考書	看護につながる形態機能学 第2版 (メヂカルフレンド社) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ) 基礎看護技術 第8版 (医学書院)			
評価方法	筆記試験、技術チェック			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	基礎看護技術論Ⅱ (生活援助技術)	2(60)	1年	前期 後期
担当教員	田中朱美、三宅弘枝 船津孝子、石倉清乃	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 4	環境を整える	1. 環境とは 2. 環境調整の援助 3. 病床調整・ベッドメイキングの実践(技術チェック)	
	5 6	移動の技術	1. 移動・移送 2. ボディメカニクス 3. ベッド→車いすへの移動の実践(技術チェック)	
	7 5 11	バイタルサイン測定	1. 呼吸・循環とは 2. 呼吸・循環を整える援助 3. 体温とは 4. 体温を整える援助 5. 意識とは 6. 呼吸・脈拍・血圧・体温の測定(技術チェック)	
	12 5 14	適切に飲食する	1. 栄養・食事とは 2. 栄養・食事を整える援助 3. ベッド上での食事介助(技術チェック)	
	15 5 20	排泄する	1. 排泄とは 2. 安楽な排泄の援助 3. 便器・尿器の挿入(技術チェック)	
	21 5 28	清潔を保つ	1. 清潔とは 2. 清潔の援助 3. 口腔ケア・洗髪・足浴・手浴・陰部洗浄・全身清拭・寝衣交換の実践(技術チェック)	
	29 30	活動・休息を保つ	1. 活動とは 2. 睡眠・休息とは 3. 睡眠と休息の援助	
教科書	考える基礎看護技術Ⅰ 第3版(ヌーヴェルヒロカワ) 考える基礎看護技術Ⅱ 第3版(ヌーヴェルヒロカワ)			
参考書	看護につながる形態機能学 第2版(メヂカルフレンド社) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 初版(日本看護協会出版会) 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版(ヌーヴェルヒロカワ) 基礎看護技術 第8版(医学書院)			
評価方法	筆記試験、技術チェック			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	基礎看護技術論Ⅲ (診療処置別看護技術)	1(30)	1年	後期
担当教員	石倉 清乃、松津 孝子、福井 孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	診療・治療に伴う看護技術を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	診療時の援助	1. 診断治療過程の理解 2. 診察場面における看護の役割	
	2 5 4	検査に伴う看護技術	1. 検査の目的と看護の役割 2. 検査介助のポイント 3. 検体検査 ・穿刺 ・分泌物(喀痰) ・尿 ・血液 4. 生体検査 5. 身体計測	
	5 ・ 6	呼吸管理に必要な技術	1. 吸引 2. 酸素吸入	
	7 5 13	与薬時の技術	1. 与薬の目的と看護の役割 2. 経口の与薬 3. 直腸内座薬 4. 塗布・塗擦法 5. 注射適用の援助 ・皮下注射 ・筋肉注射 ・皮内注射 ・静脈(内)注射、点滴静脈(内)注射 ・採血 ・輸血	
14 ・ 15	処置に対する技術	1. 包帯法 ・包帯の目的 ・実践 2. 洗浄時の技術 3. 電法		
教科書	考える基礎看護技術Ⅰ 第3版(ヌーヴェルヒロカワ) 考える基礎看護技術Ⅱ 第3版(ヌーヴェルヒロカワ) 看護につなげる形態機能学 第2版(メヂカルフレンド社) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 初版(日本看護協会出版会)			
参考書	演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版(ヌーヴェルヒロカワ) 基礎看護技術 第8版(医学書院)			
評価方法	筆記試験、技術チェック			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	基礎看護技術論Ⅳ (看護過程)	1(30)	1年	後期
担当教員	船津 孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	演習 講義			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	基礎看護技術を統合して行う援助技術について学び、展開できる。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 5	看護過程の概念	1. 看護過程の意義 2. 看護過程 ①情報収集とアセスメント ②看護診断 ③計画立案 ④実施 ⑤評価 3. 指導技術とは	
	6 5 15	看護過程の展開	1. 事例展開	
教科書	考える基礎看護技術Ⅰ 第3版 (ヌーヴェルヒロカワ)			
参考書	看護につなげる形態機能学 第2版 (メヂカルフレンド社)			
	患者さんの情報収集ガイドブック 第2版 古橋洋子 (メヂカルフレンド社)			
	日常生活から行動からみるヘルスアセスメント 初版 (日本看護協会出版会)			
	演習・実習に役立つ基礎看護技術 第4版 (ヌーヴェルヒロカワ)			
	基礎看護技術 第8版 (医学書院)			
評価方法	筆記試験、事例展開レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野 I	臨床看護総論	1(30)	1年	後期
担当教員	増原 清子、三宅 弘枝 石倉 清乃、山下 百合子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	健康障害を持つ対象を理解し経過別、主要症状別、治療・処置別等の状態に応じた看護を学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 2. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	
		健康状態の経過に基づく看護 (健康の維持・増進を目的とする看護)	1. 健康の維持・増進を目的とする看護 ・健康の維持・増進を目的とする看護の特徴 ・健康の維持・増進を目的とする人々のニーズ ・健康の維持・増進を目的とする人々への看護援助	
	2 5 5	健康状態の経過に基づく看護 (急性期)	1. 急性期における看護 ・急性期とは ・急性期の特徴 ・急性期患者のニーズ ・急性期にある患者への援助	
		健康状態の経過に基づく看護 (慢性期)	1. 慢性の経過をたどる患者の看護 ・慢性期とは ・慢性期の特徴 ・慢性期患者のニーズ ・慢性期にある患者への援助	
		健康状態の経過に基づく看護 (リハビリテーション期)	1. リハビリテーション期における看護 ・リハビリテーション期の特徴 ・リハビリテーション期の患者のニーズ ・リハビリテーション期にある患者への看護援助	
経過に基づく患者の看護 (終末期)		1. 終末期にある患者の看護 ・終末期とは ・終末期の特徴 ・終末期患者のニーズ ・終末期にある患者への看護援助		
6 5 9	主要症状を示す患者の看護	1. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2. 循環に関連する症状を示す対象者への看護		

	回	項 目	内 容
授業内容	10 5 15	治療・処置を受けている患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 輸液療法を受ける対象者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・輸液療法の特徴 ・輸液療法中の看護援助 2. 化学療法を受ける対象者への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・化学療法の特徴 ・化学療法を受ける患者・家族への看護援助 3. 放射線治療を必要とする患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・放射線療法とは ・放射線治療をうける患者・家族への看護援助 4. 手術療法を受ける対象者への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・手術療法とは ・周手術期の看護 5. 集中治療を受ける対象者への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・集中治療とは ・集中治療を受ける患者・家族への看護援助 6. 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・創傷とは ・創傷の治癒課程 ・創傷の処置と看護 ・褥瘡ケア 7. 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・IVRとは ・身体侵襲を伴う検査・治療の看護
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 第6版 岩井郁子 (医学書院) 基礎看護技術 第8版 (医学書院)		
評価方法	筆記試験		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ-1・Ⅰ-2	1(45)	1年	前・後期
担当教員	船津 孝子	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	<p>【Ⅰ-1】 看護の対象の療養環境と看護活動の場を見学・体験することにより、対象を理解し、対象をとりまく環境について学ぶ。</p> <p>【Ⅰ-2】 健康に障害をもった対象に必要な日常生活援助を理解し、その実際について学ぶ。</p>			
目標	<p>【Ⅰ-1】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟の構造・設備を理解する。 2. 対象の療養生活の場としての生活環境を理解する。 3. 看護の対象に関心をもち、コミュニケーションをとることができる。 4. 看護実践が看護倫理に基づいた行為であることを理解する。 <p>【Ⅰ-2】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に関心をよせて接し、人間としての対象をありのままにとらえる。 2. 健康に障害をもったことによって生じた対象の生活行動の変化について、情報収集ができる。 3. 対象に実施される日常生活援助の必要性を理解できる。 4. 対象の安全・安楽・自立を考えた日常生活援助を実施し、ふりかえることができる。 			
内容	<p>【Ⅰ-1】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:1) 病棟の構造、設備を知る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) ナースステーション、処置室、リネン室、倉庫、物品庫、洗濯室、トイレ、洗面所、浴室、面談室などの位置関係やその利用について考える。 2) 対象および医療従事者に対する安全への配慮を知る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故防止対策、院内感染防止対策、災害対策、ゴミ処理について知る。 3) 病棟のなかでの病室の位置関係を知る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 病棟の機能性や対象の状態による病室の位置について考える。 2:1) 病棟や病室の環境が、対象の日常生活とどのような関わりを持っているかを一人の対象を通して考察する。 <p><観察の観点></p> <ol style="list-style-type: none"> 採光、色彩、音、室温、湿度、臭い、ベッドの位置およびその機能、病棟での病室の位置関係、ベッドの間隔、カーテン、病室の広さ、床頭台の位置、入口や窓の位置、ナースコールの位置 2) 対象の生活空間としての病室を観察する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 床頭台の上の物品の配置やその内容を考察する。 (2) ベッド上およびベッド周りの物品とその配置を考察する。 3:1) 対象に関心を寄せて接することができる。 2) コミュニケーションの技法を活用し、対象とのコミュニケーションをとる。 4:1) 看護実践は全て倫理に基づいて行われることを対象との関わりや援助を通して理解する。(看護師や医療職者の患者に対するあいさつ・言葉がけや行動から相手を思いやり尊重する態度を学ぶ) <p>【Ⅰ-2】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:1) 対象を疾患名にとらわれず人間としてありのままにとらえる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) バイタルサインの測定の時 (2) 日常生活援助の時 (3) 対象と看護者の関わりから (4) 対象の反応 2:1) 対象と関わりをもつ中で情報を収集する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境整備などの実施をとおして (2) バイタルサイン測定の実施をとおして (3) 日常生活援助の見学や実施をとおして 2) 上記で得た情報を指導者に報告する。 3) 実際に対象と接することが情報収集になることを理解する。 4) 情報収集の内容が看護実践につながることを理解する。 3:1) 対象にどのような日常生活援助が実施されているか理解する。 2) どのような方法で実施されているか理解する。 4:1) 日常生活援助の実施は実習指導者又は看護教員の指導のもとに行う。 2) 日常生活援助を実施する時は必ず対象の反応などから情報収集する。 3) 実施した日常生活援助について安全・安楽・自立の視点で振り返る。 			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ	2(90)	1年	後期
担当教員	船津 孝子	実務経験	総合病院にて実務経験あり。	
授業形態	臨床実習			
目的	問題解決思考プロセスを用いて、看護過程の展開ができ、対象の日常生活援助ができる。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の全体像をとらえることができる。 2. 対象の日常生活上の看護の問題をアセスメントできる。 3. アセスメントした問題に対し、達成可能な目標設定ができる。 4. 目標達成のための援助方法を計画できる。 5. 計画した看護を安全・安楽・自立を考慮して実施できる。 6. 実施した看護を振り返り、評価できる。 			
内容	<p>【1週目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションにより、病棟の概要を理解する 2. 受け持ち患者の情報を収集する 3. 情報を整理しアセスメントする 4. 受け持ち患者の全体像をとらえる <p>【2週目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題を抽出する 2. 看護問題の優先順位を考える 3. 実習目標の中間評価を行い実習の後半に向けての課題を見出す <p>【3週目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 優先度の高い看護上の問題に基づいて目標を設定する 2. 目標を達成するために具体的な看護計画を立案する 			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	増原 清子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義 演習			
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。			
目標	成人各期の特徴を理解し、成人期における疾病の予防、健康の保持増進と健康段階に応じた看護について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1・2	成人期にある対象とその家族の理解	1. 成人期とは 2. 成人期の身体的特徴・心理的特徴・社会的特徴 3. 成人期の発達課題 4. 家族とは 5. 家族の形態 6. 家族の相互性	
	3・5	成人期の疾病の予防・健康保持増進にむけた看護	1. 健康増進の概念について 2. 成人を対象とした保健事業の内容 3. 成人保健の動向とその健康問題 4. 健康増進のための保健行動	
	6・7	成人期の健康問題の特徴	1. 生活習慣病に関連する健康問題 2. 職業に関連する健康障害 3. 生活ストレスに関する健康障害	
	8・15	成人の健康レベルに応じた看護	1. 急性期の看護 危機的状態への精神的看護支援 2. 回復期の看護 障害受容への援助 3. 慢性期の看護 セルフコントロールへの援助 4. 終末期の看護 緩和ケア	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 第15版 (医学書院) 国民衛生の動向 最新版 (厚生労働統計協会)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅰ (呼吸・循環・消化器)	2(45)	1年	後期	
担当教員	島根 和也、森脇 陽子 田村 奈都子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。				
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実際を学ぶ。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1 5 8	(循環器) 症状の観察と看護	1. 胸痛 2. 動悸 3. 浮腫 4. 不整脈		
		検査・治療時の看護	1. 心臓カテーテル 2. 心電図 3. 心エコー		
		疾患をもつ患者の看護	1. 事例展開(急性心筋梗塞)		
	9 5 16	(呼吸器) 症状の観察と看護	1. 喀痰・血痰・喀血 2. 咳・喘鳴 3. 呼吸困難 4. チアノーゼ		
		検査・治療時の看護	1. 吸入・酸素療法 2. 胸腔ドレナージ 3. 呼吸理学療法		
		疾患をもつ患者の看護	1. 事例展開(慢性閉塞性肺疾患)		
	17 5 23	(消化器) 症状の観察と看護	1. 嚥下困難 2. 腹痛・便秘 3. 吐血・下血		
		検査・治療時の看護 疾患をもつ患者の看護	1. 内視鏡検査・生検 2. 食事療法 3. 薬物療法 1. 事例展開(胃がん・大腸がん術後)		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器	第15版	(医学書院)	
	参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器	第15版	(医学書院)	
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器	第15版	(医学書院)	
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅱ (脳・神経・運動・血液・造血器)	2(45)	1年	後期	
担当教員	荒木 もも子、妹尾 尚美、 井上 智恵、持田 季未子、 石倉 清乃	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。				
目標	成人期に特徴的な疾患を学び、それぞれの経過・症状・治療別に応じた看護の実際を学ぶ。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1 5 8	(運動器) 症状の観察と看護	1. 疼痛 2. 形態の異常 3. 関節運動の異常 4. 神経の障害		
		検査・治療時の看護	1. 保存療法(ギプス・牽引) 2. 理学療法・作業療法 3. 義肢・装具		
		疾患をもつ患者の看護	1. 事例展開(大腿骨頸部骨折)		
	9 5 16	(脳神経) 症状の観察と看護	1. 意識障害 2. 運動機能障害・言語障害 3. 頭蓋内圧亢進症状		
		検査・治療時の看護	1. 脳脊髄液検査 2. 脳血管撮影 3. 理学療法・作業療法・言語療法		
		疾患をもつ患者の看護	1. 事例展開(脳血管障害)		
	17 5 23	(血液・造血) 症状の観察と看護	1. 貧血・易感染 2. 出血傾向		
		検査・治療時の看護	1. 白血病の治療 2. 血液・造血器疾患患者への支援		
		疾患をもつ患者の看護	外来化学療法を受ける患者の看護		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 第15版(医学書院)			
	参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 第15版(医学書院)			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 第15版(医学書院)					
評価方法	筆記試験				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	老年看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	山根 豊子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	老年の特徴を理解し、老年期における疾病の予防、健康の保持増進のための援助のあり方を学ぶ。			
目標	加齢に伴う身体的心理的变化について理解する。 エイジングの多様性に着眼し、個々の老年者のもつパワーを洞察する視点について理解する。 老年者を取り巻く保健医療福祉サービスの構成とその特徴に対する理解を深める。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 ・ 2	老年看護の概念	1. 老年看護学の変遷と社会史 2. ライフサイクルと老年期 3. 老年期の発達課題	
	3	高齢社会の統計的特徴	1. 人口学的指標からみた老年期の特徴 2. 健康指標、経済的指標からみた老年期の特徴	
	4 ・ 5	加齢に伴う変化	1. 加齢に伴う身体的変化 2. 加齢に伴う心理的变化 3. 老年期の発達課題加齢に伴う社会文化的変化 4. 加齢に伴う変化と健康上の問題	
	6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11	高齢者の理解	1. 「古い」を生きることへの理解 2. 高齢者疑似体験	
	12 ・ 13	高齢者と倫理	1. 高齢者差別 2. 高齢者虐待 3. 成年後見制度 レポート提出	
	14	老年看護の役割・機能	1. 老年看護の独自性 2. 老年看護の目標 3. 老年看護の原則	
	15	高齢社会の保健・医療・福祉	1. 老年保健・医療・福祉の動向 2. 高齢者の保健活動 3. 高齢者支援システム	
	教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版 (医学書院)		
評価方法	筆記試験、レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	老年看護学Ⅰ(生活援助技術)	1(30)	1年	後期
担当教員	前川 紋子、三宅 弘枝	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	老年看護援助の基本と身体的・精神的変化と生活リズムの回復に焦点をあてたアセスメントとケアの技法について学ぶ。			
目標	高齢者の生活リズムを回復するためのアセスメントの進め方を学ぶ。 高齢者の生活リズムを回復するための具体的なケアの実践方法について学ぶ。			
授業内容	回	項目	内容	
	1 5 4	加齢によって起こってくる生活の変化	1. ヘルスアセスメントとセルフケアの支援 バイタルサイン・一般状態 コミュニケーション 食生活(低栄養)(誤嚥) 清潔、排泄、活動と休息、睡眠、 認知機能、社会的役割、経済状態 2. 老年期に多い症状のアセスメントとセルフケア 痛み・しびれ、皮膚掻痒感、視力低下 難聴、めまい、うつ、せん妄 脱水、褥瘡、体温調節	
	5 5 7	高齢者の日常生活援助	1. 脱水 2. 栄養管理 3. 口腔ケア 4. 失禁 5. 便秘 6. 皮膚ケア 7. 褥瘡 8. 移動困難 9. 不眠	
	8 5 10	介護を必要とする老年期にある人の看護	1. 身体可動性障害のある人の看護(寝たきりの高齢者)	
	11 5 15	高齢者に多い医療事故	1. 転倒・転落 2. 誤嚥	
教科書 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版(医学書院)			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期	
専門分野Ⅱ	小児看護学概論	1(30)	1年	後期	
担当教員	田中 雄二、木原 公恵	実務経験	病院にて実務経験あり。		
授業形態	講義				
目的	小児の特徴を理解し、小児の健全な保育・小児期における疾病の予防・健康の保持・増進のための援助のあり方を学ぶ。				
目標	小児の特徴を知り、子どもの健康のとらえ方と看護の役割について理解する。 小児看護における成長・発達の基本となる特徴について理解する。 小児保健の動向と対策について理解する。				
授業内容	回	項目	内 容		
	1	小児看護とは	1. 小児看護の対象		
	2 5 9	別紙2参照	別紙2参照		
	10 ・ 11	小児看護とは	2. 小児看護の目的 3. 小児看護にもとめられる子どもの理解 1) 歴史的、社会的発展の中でとらえる 2) 個の成長発達の見点からとらえる 3) 現実の生活の中でとらえる 4. 小児看護の対象 1) あらゆる健康レベル 2) あらゆる生活状況・場所 3) 出生前期～青年期 4) 親・兄弟姉妹(家族)		
	12	子どもの健康	1. ライフサイクルという視点 2. 子どもにとっての健康		
	13	小児看護の変遷	1. 子ども観の変遷 2. 小児科学と疾病の変遷 3. 小児看護の変遷		
	14	小児看護における倫理	1. 子どもの権利 2. 医療現場でおこりやすい問題点と看護		
	15	小児看護の課題	1. 子どもと「子どもの権利条約」 2. 親・家族への小児看護の役割 3. 高度化する医療や社会環境の変化		
	教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 第14版(医学書院)			
	参考書				
評価方法	筆記試験、レポート				

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学概論	16	1年	後期
担当教員	田中 雄二	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	小児の正常の成長・発達を新生児・乳児から思春期まで学ぶ 小児のアセスメントに必要な技術と身体的アセスメントについて学ぶ 小児をめぐる法律と政策, 学校保健, 予防接種について学ぶ			
目標	小児の正常の成長・発達を新生児・乳児から思春期まで学ぶ 小児のアセスメントに必要な技術と身体的アセスメントについて学ぶ 小児をめぐる法律と政策, 学校保健, 予防接種について学ぶ			
授業内容	回	項目	内 容	
	2	小児と家族の諸統計	わが国の人口構造, 出生と家族, 小児の死亡	
	3	小児の成長と発達	成長・発達とは, 成長の評価, 発達の評価	
	4	小児の栄養	乳児期の栄養, 幼児期の栄養, 学童期の栄養	
	5	新生児・乳児	新生児および乳児の形態的, 生理的特徴	
	6	幼児・学童・思春期	乳児, 学童および思春期の形態的, 生理的特徴	
	7	小児のアセスメント	アセスメントに必要な技術と身体的アセスメント	
	8	法律と政策・学校保健	保健・福祉行政の推移, 母子保健, 学校保健	
	9	予防接種	予防接種と法律, 予防接種の種類と接種法	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版 奈良間美保 (医学書院)			
参考書	特になし			
評価方法	筆記試験			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	母性看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	分藤 美和	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	母性の概念と人の種族保存の意義を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ。 女性の各ライフステージの特徴と対象の健康の維持・強化についての看護を理解する。 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。			
目標	人間の性と生殖の意義と必要性を理解できる。 母性看護の意義と役割が理解でき、生命倫理について考えることができる。 母性各期の特徴、および各期の健康と看護が理解できる。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1 5 5	母性看護の概念	1. 母性とは 2. 親になること 3. 身体的、心理的、社会的特性 4. 母性意識の発達と影響因子	
	6	人間の性と生殖	1. 各期のセクシュアリティ 2. リプロダクティブヘルス/ライツ	
	7 ・ 8	母性看護の現状	1. 母性看護の変遷 2. 母子保健統計からみた動向 3. 母性看護に関する組織と法律	
	9	母性看護と倫理	1. 母性看護の倫理の特徴 2. 生命倫理	
	10 5 15	女性のライフステージと各期の看護	1. 思春期の身体的・心理・社会的特徴 2. 健康問題と看護 3. 性教育	
			1. 成熟期の身体的・心理・社会的特徴 2. 健康問題と看護 3. 家族計画指導・受胎調節	
1. 更年期の身体的・心理・社会的特徴 2. 健康問題と看護				
教科書 参考書	新体系看護学全書 母性看護学 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護 第6版 (メヂカルフレンド社)			
評価方法	筆記試験、レポート			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野Ⅱ	精神看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	田中 朱美	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	精神看護の対象と目的・機能、精神の健康と正常と異常の概念、心の構造と機能について理解する。精神保健・医療・看護の歴史的返遷を理解し、さらに精神保健福祉法など関連法規から精神障害者の人権擁護と倫理について学ぶ。ライフサイクルからみた各々発達課題の特徴や心の健康と防衛機制、精神看護学の理論的枠組みを基に精神看護の特性と役割を理解し心の健康の保持・回復のための基礎的能力を養う。			
目標	心の健康を維持するための援助及び精神障害をもつ人々に応じた援助をおこなうために、ライフサイクルや生活の場を理解する。特に精神看護概論では、心の構造と機能、精神医療の歴史について学び、精神保健活動における看護師の果たす役割と機能について考えを深めることができる。			
授業内容	回	項目	内 容	
	1	精神看護の概念	1. 精神看護の対象 2. 精神看護の目標と役割 3. 多職種協働 4. 精神看護における倫理	
	2 ・ 3	精神看護学の理論的枠組み	1. 心の機能・構造 2. 心の健康と防衛機制	
	4 ・ 5 ・ 6	精神医療と看護の歴史と現状	1. 欧米における精神医療と看護の歴史 2. 日本における精神医療と看護の歴史	
	7	精神保健と法律	1. 精神保健福祉法 2. 精神障がい者の生活を支える法律	
	8 ・ 9	ライフサイクルと精神保健	1. ライフサイクルにおける精神保健 1) 周産期のメンタルヘルス 2) 乳幼児から学童期のメンタルヘルス 3) 思春期と青年期のメンタルヘルス 4) 成人期のメンタルヘルス 5) 老年期のメンタルヘルス	
	10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	患者の心の健康と看護	1. 入院・治療に伴う患者の心の理解と看護 2. リエゾン精神看護	
	14	治療的人間関係	1. 精神看護学における理論 2. 感情労働と看護	
	15	精神医療福祉の実際	1. 地域ケアの実際	
教科書	NICE 精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種をつながり 第2版(南江堂)			
参考書	NICE 精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア 第2版(南江堂)			
評価方法	筆記試験			